

# ビジネスモデル3.0 — アイデアから実動まで — タスクホース計画

2015年5月23日  
機械振興会館

片岡 信弘, 堀米 明, 小松 昭英,  
五月女健治, 増井 久之, 須栗裕樹,  
荒川弘熙, 松本正雄, 木村礼壮

# contents

1. タスクホースの位置付け
2. タスクホースの目的
3. 目標達成のための手段
4. スケジュール
5. 参加メンバー毎の役割
6. タスクホース参加者

# 1.タスクホースの位置付

- タスクホースはSWIM研究会の有志によるも
- SWIM研究会の基本テーマ のインタプライズモデル形成技術の一部を試行
  - ◆ ネットワーク価値連鎖系企業におけるビジネス構想, 情報システム設計, システム実動
- 名称の思い
  - ◆ Web 1.0が「見る」だけの世界, Web 2.0で「使う」世界, Web 3.0で「作る, 加工する」世界が実現
  - ◆ 情報システム, 第1世代がデータ処理システム, 第2世代が, 経営情報システム, 第3世代がビジネス運用システム
  - ◆ これらに対応したビジネスモデルとの思い

## 2.タスクホースの目的

### 2.1基本的なストーリー

- アイデアに基づきビジネスモデルを設計
  - ◆ 設計結果の評価
  - ◆ ビジネスモデルのブラッシュアップ
- ビジネスアーキテクチャの設計
  - ◆ 設計結果の評価
- 情報システムの実動化
  - ◆ 情報システムの評価
- 上記の一連の手順を確立すること
  - ◆ 特にアイデアからビジネスモデルが従来は手薄

## 2.2 何が問題か

- 課題
  - ◆ アイデアがビジネスに結びつかない
  - ◆ 多くのベンチャが失敗をする
- 原因要素の一つ
  - ◆ アイデアをビジネスに繋ぐ確実な手順が無い
  - ◆ 確実なビジネス計画ができないまま起業する
  - ◆ ビジネスを支援するISを即実動できない
- タスクホースの目的
  - ◆ アイデアをビジネスに繋ぐ確実な手順立案
  - ◆ ビジネスの成功の確率を高める

# ベンチャ企業の課題

アイデアを確実に  
ビジネスモデルに  
出来ない

ビジネスモデル  
をビジネスに仕  
上げられない

ビジネスモデルを支え  
る情報システムの俊  
足な実動が出来ない

当タスクホースのテーマ

資金の調達の課題  
ベンチャキャピタルの不足

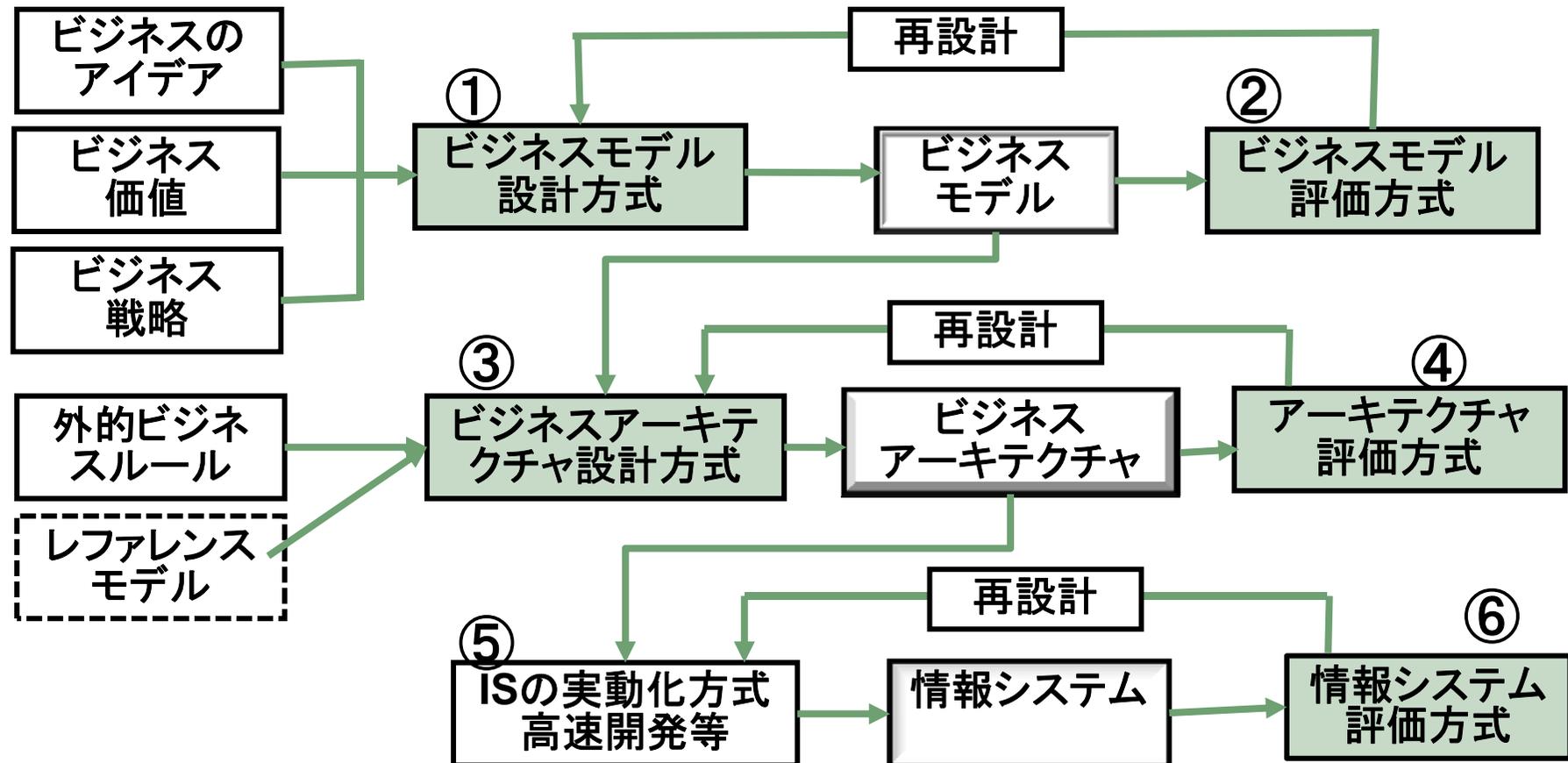
社会風土  
失敗に対して再チャレンジを許す風土  
異質なものを取り込む風土

人的資本  
起業家の能力, 教育  
や過去の経験

社会関係資本  
起業家の友人や知り合いとの交  
際を通じて得られる情報や知識

課題は, 起業時, 離陸時, 安定期により大きく異なるが当タスク  
ホースでは, 起業時の課題をテーマとする

## 2.3 タスクホース全体像



## タスクホース全体像の解説

- ① アイデアからビジネスモデル設計方式
  - ◆ アイデアにビジネスの価値, 戦略を追加
- ② ビジネスモデルを評価する方式を確立
  - ◆ ビジネスモデル評価, 再設計を行うサイクルを回す
- ③ ビジネスアーキテクチャの設計方法の確立
  - ◆ ビジネスモデルに外部ビジネスルール等を追加
  - ◆ ビジネスルール, ビジネスプロセスを設定
  - ◆ ISのブループリント生成
- ④ ビジネスアーキテクチャの評価方式の確立
  - ◆ アーキテクチャ評価, 再設計を行うサイクルを回す
- ⑤ ISの実動
  - ◆ 世の中の高速化手法を利用(GeneXus等多数あり)
- ⑥ 実動化されたISの評価方式確立
  - ◆ 評価, 再実動を行うサイクルを回す
- ビジネスモデルから情報システムのクイックパスも考慮する

## 2.4 ストーリー確認のための事例選択

- 標準的な方式の確立は、難しい。幾つかの事例で、一連のストーリーを確認する
- 高邁な事例を今後検討する

### 3. 目標達成のための手順

## 3.1 ビジネスモデル設計方式

- アイデアからビジネスモデル(ビジネスシナリ)設計方式
  - ◆ ビジネスに対する思い
    - 誰のためビジネス
    - 何のためのビジネス
  - ◆ ビジネスで実現する価値
    - 顧客に対する価値
    - ビジネスを行う側の価値
  - ◆ ビジネスの戦略
    - 顧客とのリレーションシップ
    - 顧客とのチャネル, 顧客セグメント
    - 差別化要素

## 3.2 ビジネスモデルの評価方式

- 作成したビジネスのシナリオが、旨く行けそうかの評価を行う
- 評価項目は、下記の項目等について行う
  - ◆ ビジネスのコンセプト
  - ◆ ビジネス環境
  - ◆ 技術的競争力
  - ◆ 収益性
  - ◆ 差別化要素などであり今後更に検討する

## 3.3 ビジネスアーキテクチャ(BA)設計方式

- BAとは何か
- TOGAF (The Open Group Architecture Framework)の定義事例
  - ◆ 動機(Motivation)
    - 推進要素 目標 目的 評価基準
  - ◆ 組織(Organization)
    - 組織 ロケーション アクターと役割
  - ◆ 機能(Function)
    - ビジネスサービス プロセス 機能
- 我々は下記をBAの設計要素に組み込む
  - **アクターと役割**
  - ◆ 機能(Function)
    - **ビジネスサービス プロセス 機能**

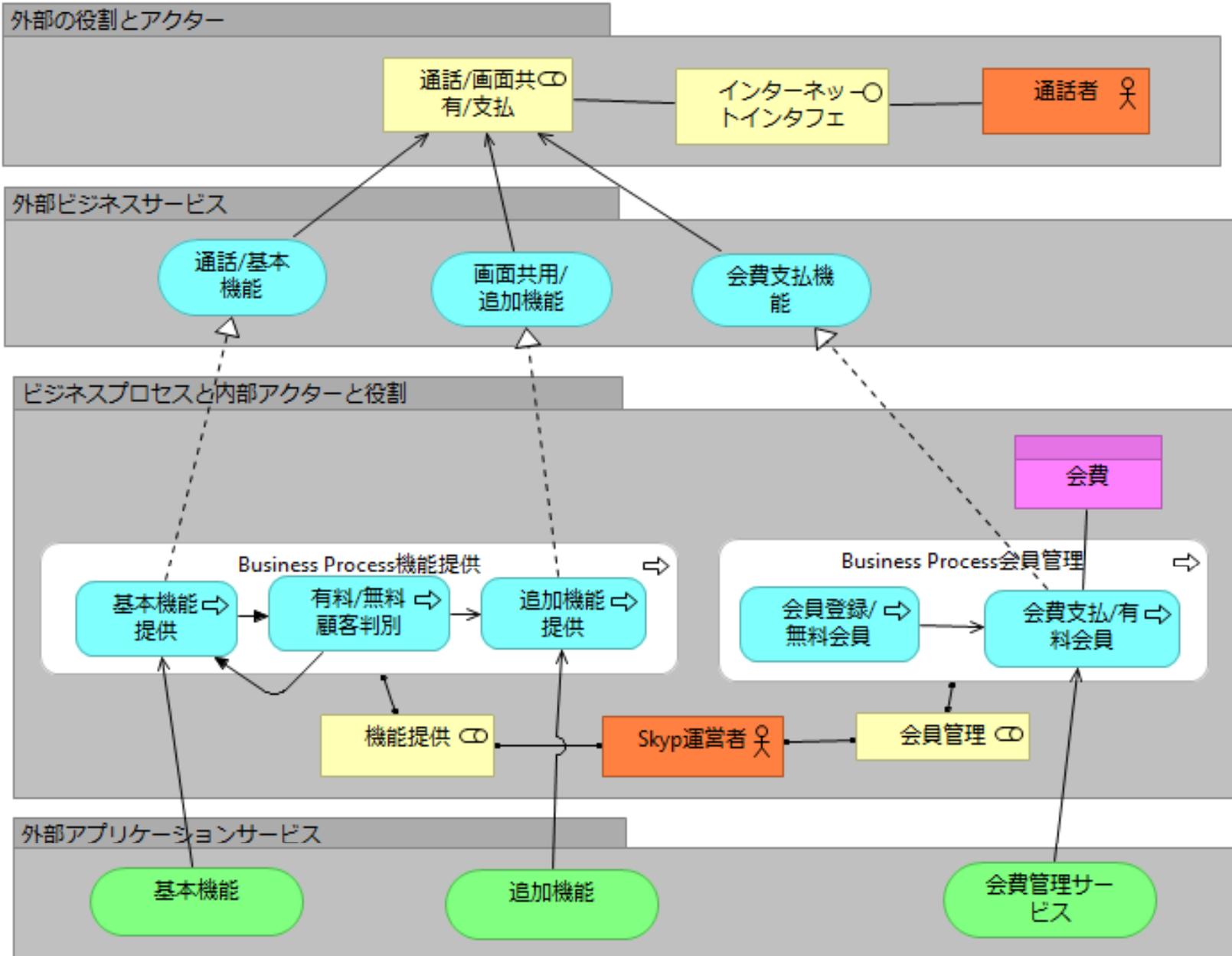
## BA設計方式その2

- ビジネスモデルに下記を追加してBAを設計
  - ◆ ビジネスプロセス
    - 外的ルール:法律や業界ルール
    - 内的ルール:業務の規則
    - 業務手順
  - ◆ アクターと役割
  - ◆ ビジネスサービス(外部から見た機能)
  - ◆ ビジネス機能(内部で実現する機能)
  
- BAの表記にはThe Open Group のArchiMateやBPMNを利用

# ArchiMateでの記述

- 全体的なビジネスの記述が可能
  - ◆ アクター(ビジネス実施者, ビジネスの利用者)
  - ◆ 提供されるサービス
  - ◆ サービスを提供するインタフェース
  - ◆ 大まかなビジネスプロセス
  - ◆ サービス実施のための機能(アプリケーション)
- 詳細なビジネスプロセス記述にはBPMNを利用

# ArchiMate記述例(Skype)



## 3.4 BAの評価

- BAの評価は、ビジネスモデルを支えるBAとなっているかの観点より行う

## 3.5 情報システム実動化と評価方式

- 情報システムの実動化
  - ◆ GeneXus等世の中多数ある高速化手法を利用
  - ◆ なにを利用するかは今後検討
- 情報システムの評価は下記の観点で行う
  - ◆ 情報システムがうまくビジネスを支えているか
    - ビジネス価値に貢献出来ているか
    - ビジネス戦略に貢献出来ているか

## 4.スケジュール

		2015年度	2016年度	2017年度
1	関連文献調査	→→→		
2	BM 設計方式検討	→→→		
3	BM 設計トライアル	→→→		
4	BM 評価方式/評価実施	→→→	→→→	
5	<u>Archi</u> 設計方式		→→→	
6	<u>Archi</u> 設計実施		→→→	
7	<u>Archi</u> 評価方式/評価実施		→	→
8	IS 実動化方式			→→→
9	IS 実動化実施			→→→
10	IS 評価方式/評価実施			→→→

## 5. 参加メンバー毎の役割分担

作業項目	タスクホース メンバー	参加大学学生	参加企業 メンバー
1 関連文献調査	◎		
2 BM 設計方式	◎	○	
3 BM 設計トライアル	○	◎	
4 BM 評価方式/評価実施	◎	○	◎
5 Archi 設計方式	◎		
6 Archi 設計実施	◎		
7 Archi 評価方式/評価実施	◎		◎
8 IS 実動化方式	◎		
9 IS 実動化実施	◎		
10 IS 評価方式/評価実施	◎		◎

## 6. 現時点参加メンバー

- 片岡信弘(元東海大学) 幹事
- 堀米明(フィジオ) 幹事
- 小松昭英(ものづくりAPS推進機構)
- 五月女健治(法政大学)
- 増井久之(電気学会)
- 須栗裕樹(宮城大学)
- 荒川弘熙(チーム荒川)
- 松本正雄(ICEIS)
- 木村礼壮(ドリームIT研究所)
- 久保田 雅彦(MIND社)

# 引き続き参加者募集中

下記の幹事までご連絡ください。  
片岡信弘 : kataoka9@kataoka9.com  
堀米明 : horimai@figeo.co.jp

## 参考文献

- [1]野地保, 片岡信弘, 堀米明, 黒瀬晋, ビジネスモデルを科学する  
ープロジェクト報告008ー, 信学技報, SWIM2014-24(2014-11),  
pp59-64
- [2] 松田尚子, 松尾豊, 企業家の成功要因に関する実証分析, 経済  
産業研究所RIEIT Discussion Paper Series13-J-64(2013)
- [3] ICT経営パートナーズ協会 (著), 関 隆 明 (監修), 超高速開発が  
企業システムに革命を起こす, 日経BP社(2014)
- [4] 松本正雄, 高尾みどり, インタプラス モデル化方法の目溢と対  
案 IMDM-PA1, ー目次的ビジネスモデルからアーキテクチャ要  
旨へー, 信学技報, SWIM2014-33(2015-02), pp37-42
- [5]阿部仁志, 石田文章, 佐久間啓, 奥康成第二世代のビジネスモデ  
ル設計, 科学技術と経済の会, 2005年次大会講演集pp819-822
- [6] TOGAF Version 9.1: <https://www.opengroup.org/togaf/>
- [7] <http://archi.cetis.ac.uk/>

ご静聴有り難うございました。